

3年「あまりのあるわり算」



7月4日に実施した3年生の研究授業は、今までと違う雰囲気の中で行われました。日本の学校教育について学びに来た海外の先生方約50名が参観していたのです。アメリカ、オーストラリア、シンガポールなど国も様々で、大学教授や校長先生もいらしたようです。日本の学校では校内で研究授業を行い、互いに学び合うことはごく普通に行われていますが、海外にはそのような学び方をしている所は少ないため、世界的に注目されているのだそうです。

授業前には「先生、今日はまじめにやらなくちゃ」とつぶやく子も。子どもたちも固くなっていましたが、授業者も今までと違って緊張気味でした。

この日の授業は、「あまりのあるわり算」の2回目でした。前の時間に、割り切れないであまりの出るわり算があるということを初めて知ったばかりです。

まず、右の問題が出されました。

式が「 $16 \div 3$ 」になるということはすぐにわかりました。けれども、「16」は、3の段の答えにはありません。

ゼリーが 16 があります。
1人に3にずつ分けると、
何人に分けられますか。

答え 5人に分けられて
1にあまる

これまで、わり算はかけ算九九を使えば答えが出ると子どもたちは思っていました。では、この場合は、どうすれば答えを見つけられるのでしょうか。前の時間には、おはじきを動かしながら答えを見つけました。この時間は、これまでに学習したことを活用して、おはじきを使わずに考えることが目的です。

どの教室でも、絵を描いて考える子がいました。おはじきの代わりに、丸をかいて考えたようです。やはりわかりやすく感じるようです。

3の段の九九を使って何とか答えを導き出す子もいました。

同じく3の段を使っているけれど、違う答えの子もいました。

「 $3 \times 6 = 18$ から2を引いたら16になるから、答えは6あまり2」

正解ではありませんが、大事な間違いです。全員が正解してしまっただけでは、学びは深まりません。

この日の授業では、この考え方についてゆっくりと話し合う時間をとれませんでした。翌日の授業では、「6あまり2ではなぜいけないのか」をたっぴりと話し合い、答えはわかる数よりも小さくなるように見つけることを理解していきました。

